

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別講習会（関東）

開催日:2013 年 8 月 30 日

場所 :静岡県静岡市(調査地点コード 220330)

講師 :三浦・阪田(森林総研本所)

概要

関東ブロックを担当するクレアテラの担当者 3 名を対象に地域実技講習会を実施した。当日は晴天に恵まれたが、最寄りの市街地域では猛暑日となり、大変暑い状況で講習がおこなわれた。調査地点は静岡県東部に位置する標高 500m 付近のヒノキ人工林斜面(傾斜 30~40 度程度)にあり、途中、市街地の渋滞や一部細い林道を通る部分があったが、比較的アクセスよく調査地点近くの集合場所まで到着した。調査地点は集合場所の林道からは距離 200m 足らず、標高差 100m 余り登ったところで、林道から入る地点や分岐点に標識杭があるなど、調査地点への視認が容易であった。クレアテラはインベントリ事業当初からの参画であり、特に土壌調査の経験は豊富であることから、今回の講習会では基本的には主体的に調査してもらい、講師が必要に応じて助言する方針とした。ただし、枯死木調査については出来るだけ講師からも積極的に助言するようにした。

中心杭・外周杭の確認は担当者が前日に済ませていたことも有り、速やかに調査地概況調査がおこなわれた。9 時前から作業を開始し、10 分あまりでプロット設定が完了し、2 名がそのまま水平距離測定および枯死木調査に、1 名が土壌断面の粗掘り作業にかかった。枯死木は非常に少なく、ライン上の倒木が 1 本、全数調査において枯死木が数本程度であったため、枯死木調査も 9 時半頃には終了した。途中、計測の必要のない枯死木を例にして分解度の確認をおこない、見た目だけでなく実際に手で触れて判断することの重要性を説明した。また、根株が出現しなかったため、全調査終了後、適当な根株を見つけて全員で判定基準などの確認をおこなうことにした。枯死木調査をおこなった 2 名は土壌断面の粗掘りをおこなっていた 1 名とともにそれぞれの地点において堆積有機物量および土壌炭素蓄積量調査をおこなった。礫はそれほど多くなく、土壌が柔らかいこともあって、昼食までに 3 地点の調査が終了し、残りの 1 地点も土壌断面作成まですませ、昼休みとなった。昼食後は最後の 1 断面を全員で作業した。講師側から比較的丁寧に作業手順の確認をおこない、作業を進めて貰った。一部、400mL 円筒による土壌採取の実演もおこない、15 時過ぎには調査終了、15 時半頃に集合場所に戻って、試料リストのチェック済ませ、講習会を終了した。

担当者は全体を通しての段取りや炭素量調査は経験豊富で非常に手慣れていた。一方で、調査手法の基本で理解不足のところも一部にみられた。土壌断面整形や試料採取の手順について再確認するとともに、試料採取の際に細かく深度の確認をして正確に作業することを指摘した。円筒試料の採取に関して、実際に作業してもらうなかで指摘しつつ、そのあとで講師側が実演することで、正しい採取方法を実感して貰えたと感じた。また、担当者の一人が土壌平ゴテの代わりに好み焼き用のゴテを使って作業されていたが、講師が用意していた平ゴテも併用して貰い、適切な調査道具の有用性を認識、実感してもらった。調査道具にかんしては森林総研からの貸与も可能であることを説明した。その他、堆積有機物から土壌試料の採取において上から下まで全層で採取する重要性を指摘し、特に F 層の採取に注意を要することを理解して貰った。今後も主な調査担当者が定期的な講習を受けて、基本技術の確認・点検、最新情報の収集をすることは重要だと思う。今年導入された石礫率パウチは有用で、石礫率表による低い石礫率判定などで有効に使われていた。



水平距離測定の様子。手慣れた感じで速やかに進められていた。



枯死木調査の様子。本調査地点では唯一の倒木。



堆積有機物の採取。L/F の見分け方や F 層を正しく採取することの重要性を指摘。



円筒試料採取の実演。剪定鋏や包丁、コテの使い方についても細かく説明。



土壌化学性サンプルの採取。調査道具の使いやすさを実感してもらうため、講師が持ってきたものも使ってもらう。



サンプルチェック。開けたところでまとめて確認することが多いそうです。